

## 平成 年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業

## (Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

## 事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村名【 豊橋市】
平成27年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制</p> <p>IOM事業として「虹の架け橋教室」を受託していた民間団体へ、これまでの実績を活かして外国人児童生徒への支援を継続するため、市からの委託事業として実施した。</p> <p>市の委託事業として実施するに際して、市教育委員会の国際担当指導主事、外国人児童生徒相談員との協働による体制とし、本事業の内容(仕様書)の作成から実施にあたっての日本語教員の指導状況、使用テキストに対する助言、不就学児童生徒の学習の進捗状況の随時確認など、公立学校への円滑な転入を図るため密な連係を行った。</p>
<p>2. 具体の取組内容</p> <p>市教育委員会と連携し、本事業で支援する児童生徒、公立学校において支援する児童生徒、また両者により支援する児童生徒とパターンを分け、互いが効率的に不就学児童の支援ができる仕組みとした。</p> <p>公立学校においては、特に外国籍の児童生徒多い地区について、不就学児童生徒の初期支援を実施するためのプレクラスの立ち上げや、国際教室や取出し、入り込み指導における母語支援の強化、プレクラスの無い公立学校の地域については、優先的に本事業において支援した。</p> <p>また、本事業での外国人児童生徒の学習状況や、その子どもを受け入れる予定の公立学校の受入態勢の両面を考慮し、教育委員会と随時相談しながら、適切な時期に転入手続きを行った。</p> <p>転入にあたっては、本市が特別の教育課程を対象校全校で実施していることに鑑み、その個別の指導計画に代わる様式を事業実績報告中に織り込み、公立学校での今後の指導へスムーズにつなげていくための仕組み組み込んだ。</p>
<p>3. 成果と課題</p> <p>市教育委員会と連携し、必要に応じて他部署とも調整を行ったことで、外国人児童生徒の就学支援を市内全域において効率的に実施することができた。</p> <p>しかし、本事業において受け入れる児童生徒について、想定よりも日本語力の低いもの、発達障害の疑いのあるものなど、小規模で指導員の少ない体制では支援が困難となる面もあった。</p>
<p>4. その他(今後の取組等)</p> <p>上記の課題を踏まえ、次年度においては事業の効率化を図り、指導員の増員や市国際交流協会のボランティアの活用など、より充実した支援体制としていきたい。</p>

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)